

# 社会的共通資本としての子育て支援施設の機能

北海道大学 遠山景広

## 1 目的

この報告の目的は、社会的共通資本の機能を、育児支援の面から生活基盤の要素として捉えなおし、ネットワークへの作用を示すことにある。従来、経済基盤を中心に分析の対象となってきた社会的共通資本だが、現代においては個人の生活と接する部分での生活基盤としての機能が強調されるようになった。特に育児や医療などの分野では、サービスの提供者と利用者、利用者と利用者間で施設機能への共有が必然化する。子育て支援施設を事例として、従来は都市装置とされてきた社会的共通資本が、利用者の社会関係資本を含むネットワークの創造にどのような機能を持つのか考察したい。

## 2 方法

札幌市の子育て支援施設において、利用者の施設に対する評価を調査することで、利用実態と期待度を明確にして、そこから主観的な関係資本化の評価を収集する。社会的共通資本である公的な子育て支援施設が利用者の育児支援にもつ評価の構造を明らかにするために、60名程度の半構造化インタビューを試み、その結果を以下に分析する。

## 3 結果

分析の結果、施設への評価は2点に大別される。1つは施設・設備への評価である。もう1つはここで形成される人間関係への期待と評価である。後者は、施設を継続的に利用する中で、親子双方が他者と日常的に接触する機会を獲得し、自身の育児ネットワークとして、子育てにおける負担感の軽減を含めて広く活用している。本調査結果は、当初の仮説を支持するもので、施設利用者は利用の継続を明確に希望しており、施設への批判や要望は建設的な形で挙げられた。そのうえで、子どもと一緒に施設を利用するなかで、利用者同士を同じ経験を共有する仲間として認識し、選択的で密な接触を期待している。施設・設備への評価は社会的共通資本の維持存続にとって有益であり、新しく獲得された人間関係は、施設の継続利用を通し、展開次第で新たに社会関係資本を形成する可能性を持つと評価される。1年間の調査においても、施設による公助を媒介としたネットワークング、つまり共助の萌芽は確認でき、すでに子育てに不可欠な関係としてママ友を認識するケースもみられた。

## 4 結論

以上から、札幌市における子育て支援施設には、社会的共通資本としての育児支援の側面である顕在的正機能と、そこから新しく社会関係資本へとつながる潜在的な正機能を備えていると考えられる。支援学の立場からは、公助を介した共助と捉えられる。子育て支援施設を介した関係性は、育児支援という手段的機能を超え、その家族にとって「喜び、気晴らし、生き生きした気分」を得られる、ジンメルという「社交圏」以上の存在と解釈できる。この点について、都市装置とされてきた社会的共通資本が、個人の利用方法次第では、人と人との関係性を基礎とする社会関係資本との接点としての役割も担うのではないかと考察した。但し、社会関係資本形成は恒常化した作用であるのか、サービスの提供者と利用者との関係性等の課題については、今後の調査により事例を増補して判断したい。

さらに情報への接触段階を含め、接触・形成・維持・活用の4段階を活用すると、コミュニケーション論からも、社会的共通資本が果たす公助が、利用者間に生まれるネットワークングを共助につながる社会関係資本へと発展する文脈が見通せるように思われる。

## 文献

宇沢弘文, 1994, 「社会的共通資本の理論(一)、(二)」『宇沢弘文著作集II』岩波書店。

金子勇, 2006, 『少子化する高齢社会』日本放送出版協会。

Coleman, J. 1988, "Social Capital in the Creation of Human Capital", *American Journal of Sociology*, 94, pp. S95-S121.